

# 幻の「従軍慰安婦」を捏造した 河野談話は「いつ直せ」 安倍発言で審議加速

秦 郁彦 いくひこ 現代史家



河野元首房長官

河野元首房長官  
河野元首房長官  
河野元首房長官

河野元首房長官  
河野元首房長官  
河野元首房長官

あの時「強制連行はやつてない」と語る勇気  
を欠いたツケによる玉突き現象が起きている

米軍もさんざ日本じゃ慰安させ  
——朝日川柳——

## 再燃した慰安婦狂騒曲

一〇〇七年三月六、七日の日本共産党機関紙『赤旗』は、「安倍首相『慰安婦』発言に世界から批判」の大みだりで、海外支局を動員して「事実を認めよ——中国外相『適切処理を』」「米NYタイムズが社説『事実ねじまげた日本恥をさらしている』」のような記事を並べ、加えて「韓国6紙が批判社説」に「強制性もつのは明らか」という市田党書記局長の首相批判を添えている。

は通用しないと私は考える。代りに速効性のある反撃策を提案したいが、その前にぎつと内外環境の情勢分析をしておこう。

一言にしていえば、慰安婦問題はさまざまな思惑を秘めた内外の諸勢力が提起した政治問題である。クラウゼヴィッツ流に定義すれば、「他の手段をもつてする政治の継続」ということになろう。だからこそ、流れこそないものの、事実関係は棚にあげて甘言、強圧、だまし、トリックなど何でもありの秘術をつくした政治的かけひきが横行する。

それに慰安婦問題は活火山や桜島に似た火山のようなもので、一九九一年から九年にかけての大噴火が、河野談話（九三年）やアジア女性基金による「償い金」の支給で収まつたかと思えば、昭和天皇を有罪と宣告した女性国際戦犯法廷（二〇〇〇年）やその番組製作をめぐるNHK対朝日新聞の泥仕合（二〇〇五年）など間歇的に噴煙を吹きあげる状況がつづいてきた。休火山というより活火山なのかもしけない。

最新の噴火が今回の下院決議案をめぐる騒動なのだが、噴煙は数年前からカリフオ

四月末の首相訪米をにらんで慰安婦問題に関する対日非難決議が米下院本会議で可決されそうな情勢なので、二月中旬頃から内外の新聞が興奮氣味に書きたてている。

そのなかで、記事量がもつとも多い『赤旗』から引用させてもらったのだが、他の全国紙も負けていない。

読売、産経はおとなしめだが、毎日は三月八日の社説で「河野談話」の継承は当然だと書いた。すでに六日の社説で「いられぬ誤解を招くまい」と題して、毎日とほぼ同主旨の主張を打ち出して、朝日は十日八日の社説で、「日本は北朝鮮による拉致を人権侵害と国際社会に訴えている。その一方で、自らの過去の人権侵害に目をふさい

でいては説得力も乏しくなるう」と、北朝鮮国営放送に似た拉致と慰安婦の相殺論まで打ち出すに至つた。それでも毎日は下院決議の不成立を望んでいるようだが、対応策としては「従軍慰安婦問題で謝罪してきただわが国の立場をていねいに説明することだ」としか述べていない。どうやら決議を阻止する知恵の持ち合わせはないらしい。

これでは、日米開戦前に喧伝された「ABCD包囲陣」で追いつめられた状況と同じではないか。米下院決議には法的強制力はないのだから、静観し放置せよとか、ひたすら謝りつけようという意見もあるらしいが、ここまで過熱した事態を收拾するには、この策

ルニア州やワシントン周辺でくすぶつていた。正確に言えば今回の決議案は五回目

（一説では八回目）である。

提出してもそのつど不成立ですんでいたのだが、昨年四月に提出された決議案（レイン・エバーンス議員が主導）は九月に委員会は通過したもの、本会議へ行くことなく年末に廢棄となつた。さすがに委員会通りであつた在米大使館が、ロビイストを雇つて工作した成果だともいう。

しかし引退したエバンス議員を引きついだ日系三世のマイク・ホンダ議員が本年一月三十一日に、同じ主旨の決議案を下院外交委員会へ提出、二月十五日には小委員会

で元慰安婦三人が出席した公聴会も開催された。在米大使館はホンダ議員の意図をみづかれていたし、首相のお詫びをくり返してきた

勢の銀頭調に終始したので効果は乏しく、共同提案議員は当初の六人から二十五人

マイク・ホンダとは誰だ？

ホンダは一九四一年六月、カリフォルニア

で開催された中間選挙で民主党の「リベラル人権派」が外交委員会の委員長と同小委員長に就任したこともあり、今回は採択される公算が大きいと予想されている。では決議案を主唱しているマイク・ホンダとはどんな人物なのか、何を狙っているのか、突然の登場だけに手持ちの情報が乏しいので、ネットで検索してみた。すると同じ思いか、「ホンダとは誰だ？」式の論議が飛びかっている。

日系人なのに、なぜ反日行動を主導しているのかという違和感が先に立つのかも「日系人になりすまし」「本当は朝鮮系らしい」「ベトナム系中國人か」「経歴不詳の怪人物」といったあいだが、かりにも情報公開大國のアメリカが出自定かならぬ議員がいるはずないと探してみたら、本人のウェブサイトにきちんとした身上記録が見つかつた。れっきとした日系アメリカ人であることが確認できたので、つぎに略歴と政治活動の背景を紹介しよう。

ト・グローブに食料品店を営む日本人を両親として生れ、半年後の日米開戦でコロラド州の日系人収容所に入る。一九五三年からストロベリー摘みに転じた両親とサンノゼに住み、地元の高校、州立大を経て、四年大学院で修士号をもつた教師の道へ進む。その間に平和部隊の一員としてエルサルバドルで二年活動、その後は校長、教育委員を経て一九九六年、カリフォルニア州下院議員に選出され、九九年に成立したハイデン法を主導した一人となる。

ハイデン法とは日本の「戦争犯罪」に対し、在米の日系企業を誰でも提訴できるとする州法で、総額百二十兆円の補償要求が出たが、連邦最高裁まで争い違憲と判定され敗退した途方もない悪法である。「戦争犯罪」には捕虜虐待、南京事件、慰安婦まで含まれていたから、二〇〇〇年から連邦下院議員となつた彼にとって下院決議案はあきらめきれぬ宿願なのかもしれない。

ホンダの政治活動にはサンノゼを中心とするシリコン・バーを選挙区(第15区)としている事情も影響しているようだ。この地域はスペイン系のほか中国系、韓国系、ペトナム系の住民が多く、アジア系の人口比

安婦」の悲劇や第二次世界大戦中の日本のその他の戦争犯罪を軽視しているものもある。

日本の官民の当局者たちは最近……河野談話を薄め、もしくは無効にしようとする願望を示している。……このため、以下、下院の意思として決議する。

日本政府は、  
(1) 日本国軍隊が若い女性に「慰安婦」として世界に知られる性奴隸(Sexual Slavery)を強制したこと、明確にあいまいさのないやり方で公式に認め、謝罪し、歴史的責任をうけいれるべきである。

(2) 日本国首相の公的な資格でおこなわれる公の声明書として、この公式の謝罪をおこなうべきである。

(3) 日本国軍隊のための性の奴隸化および「慰安婦」の人身売買はなかつたといういかなる主張にたいしても、明確、公式に反論すべきである。

(4) 「慰安婦」にかんする国際社会の勧告に従い、現在と未来の世代に対しこの恐るべき犯罪についての教育をおこな

日系人の対日心理も、考慮する必要がある。白人の研究者から「アメリカにいるアジア系アメリカ人で母国の悪口を聞いて怒り出さない者はいないが、日系人は平気で、反日運動に参加する人さえいる。なぜだろうね」と聞かれたことがある。

答えかねて、「日本に住む日本人でも反日家は少なくないからねえ」と逃げたが、最近は日系人のアイデンティティは消えつてしまつたと指摘する専門家もいる。ホンダ議員を支えているのも、広義のアジア系意識なのかもしれない。

もちろん政治家である以上、彼が口にすることは美辞麗句ばかりである。彼の公式サイトから拾うと「正義の実現は日本のためのが過去の戦争の記憶なのだ」「平和な国の大のなかで、横のつながりを阻んでいたものが過去の戦争の記憶なのだ」「平和な国際社会を育成するために、過去の問題を解決する和解を、われわれの世代が呼びかけるべきだ」のようなものだが、「日本叩き」で他のアジア系を結束し票固めをするのが本音かなと思わせる。

「彼は中国での人気が高い。また彼の活動

している」という『朝鮮日報』のナ

のあたりを言い当てるかに

実際にホンダと連帯して下院決議案

准してきたのは、ワシントンに本拠地を置く「慰安婦のためのワシントン連合会」で、米地方裁判所に提訴した十五件の裁判闘争を支援してきた朝鮮人団体である。

二月十五日の公聴会も、三人の原告

の証言が目玉になっているとはいっても、

非難決議案(赤旗特派員・鎌田洋の訳文)は彼女の起草かと推定する。内容から判断して、次に摘要

決議一二二号

日本政府による軍事的強制慰

「慰安婦」システムは、その残酷模の大きさで前例のないものとなる。集団レイプ、強制妊娠中絶性暴力を含み、結果として死は自殺に追い込んだ二十世紀最後の売買事件になった。日本の学校で、新しい教科書のなかに

読んでいるうちに口汚なく日本を罵る北

朝鮮の国営テレビを思い出して氣分が悪くなつたが、多少の解説を加えると、(2)は在米大使館が歴代首相の謝罪を強調していることへの当てつけか。首相個人ではなく、内閣や国会の総意を代表しての公式謝罪でなくてはというのだが、受け入れたとしても「(今まで)本当の謝罪ではなかつた」(下院小委員会のファレオマバエガ委員長)とか「天皇が全戦争犯罪に対し、より力強い謝罪をすべきだ」(三月七日付口

サンゼルス・タイムズ社説)式にとめどなくエスカレートする可能性が残る。

(3) はホロコースト(ユダヤ人の大量虐殺)に対する異論を、法的に处罚できる下級の例を見習えという示唆とも読める。河野談話を薄めようとする者も、处罚の対象になるらしい。

(4) は前文で日本の教科書への苦情を述べているところから察すると、必ず慰安婦がホンダ議員の主旨説明、パネル環境小委員会、論題は「慰安婦問題」となっている。

公聴会が開催されたのは二月十

事録によると場所は下院ビルの一

会は小委員長の挨拶につづき、

がホンダ議員の主旨説明、パネル

安婦の李容洙(LEE YOUNG SOO)

(オランダ出身、現在は豪州居住)

した。

三人のうちオヘルネは一九四四年ジャワ・スマランのオランダ民間人抑留所から日本軍部隊の慰安所へ連行され売春を強制されたが、気づいた軍司令部の命令で二ヶ月後に解放され慰安所は閉鎖された。

オランダ軍事法廷は戦後に責任者十一人へ死刑（一名）をふくむ有期刑を科したので、法的には六十年以上前に終結した事件である。

残りの二人は韓国人女性だが、ここではソウルの「ナヌムの家」に住み、語り部として訪日経験も多い李容洙の証言（要旨）を議事録から紹介したい。気になる個所に傍線を引いておいた。

「私の前半生」

一九二八年十二月、大邱生れ。男五人、女一人の九人家族だが、貧しかったので学校は一年しか行かず、十三歳の時から工場で働く。一九四四年秋、十六歳の時に女友達のキム・ブンスンと川辺で貰拾いをしていた時、丘の上から年長の男が私たちを指し、連れの三十歳代の日本人がやつてきて誘つた。おびえた私は走つて逃げたが、数日後の早朝にキムが

窓を叩いて小声で誘つた。

私は母に黙つてスリッパでそっと抜け出すると、数日前に見た日本人がいた。彼は人民軍のような服（People's Army Uniform）に戦闘帽をかぶり、三人の少女が一緒にいた。合流して五人になった我々は駅から列車で平壤を経由して大連へ向つた。途中で帰りたいと泣いたが拒否された。

十一隻の船団に乗り、船中で四五年の元旦を迎えた。上海に寄つたあと台湾へ向つたが、途中で爆撃に会い乗船に爆弾が一発命中した。大混乱の最中に同船していた日本兵にレイプされた。これが私にとつて最初の性体験である。

船は沈みかけたが何とか助かり、私は血まみれで台湾に上陸した。同行した慰安所の主人（妻は日本人）は「おやじ」と呼ばれたが、時に暴力をふるわれた。新竹の慰安所ではトシコと名のり、毎日四、五人の兵士に性サービスした。そのうち性病にかかり、なじみの特攻バイロットにうつしてしまったが、彼は「君の性病は明日突つこむ僕へのプレゼントと考えるよ」とやさしかった。

終戦となり、四人の仲間とともに帰国。両親にも私の体験を語らないまま、飲み屋で働いたり魚の行商、保険の外交員などをして戦後をすごした。

公聴会にひっぱりだした以上、目をそむけるような陰惨なエピソードのオンパレードだらうと覚悟して読みはじめた私は、いささか拍子抜けした。涙もあれば笑いもあって、テレビ局が飛びつきそうなメロドラマ風の筋立てではないかというのが率直な感想だが、彼女たちの身の上話には女工哀史を題材にした「ああ野麦峠」の百円工女のようないい話題の物語も珍しくない。

波乱万丈の一代記を出版した文玉珠（故人）もそのひとりで、ビルマでは「利口で陽気で面倒見のいい慰安婦」として将軍から兵隊までの人に愛を集め、三年足らずで二万六千余円の貯金ができ、五千円を仕送りしたという。本當なら、在ビルマ日本軍最高指揮官より多く稼いでいることになる。

もつとも彼女は一九九二年に時価修正しての払い戻しを日本の郵便局へ請求したが、断わられる不運な目に会つている。

李容洙の場合は戦争末期なので仕送りするどころか、ただ働きに終つたろうと想像するが、動機は民間業者の甘言に乗せられ

表1 連行事情に関する李容洙の申し立て（要旨）

	年月日	連行時の事情
1 韓国挺対協への申告	1992	国民服と戦闘帽の男から赤いワンピースと革靴をもらい、嬉しかった——即座についていった（その他は6と同じ）
2 女性国際戦犯法廷記録	2000.12	日本人男性（慰安所の主人）にだまされて
3 「赤旗」記事	02.6.26	14歳で銃剣をつけられて連行
4 京大講演	04.12.4	「軍服みたいな服を着た男」に連行された
5 越ヶ谷市民集会	05.8.3	「軍服みたいな服を着た男」に小銃でおどされて連行
6 米下院公聴会	07.2.15	(本文参照)
7 ジャパンタイムズ	07.2.22	14歳で日本兵に首をつかまれ家から引きずり出された
8 日本外国特派員協会	07.3.2	月の明るい夜の2時か3時に軍人と女が家に入ってきて、刀を突きつけ、口を押されて連れ出され、女3人をつれた軍人と合流、列車に乗せられた
9 ニューヨーク・タイムズ	07.3.6	母親を呼ばぬよう、日本兵は私の口をふさいで家から引きずりだした
10 ワシントン・ポスト(AP)	07.3.7	1942年7月、15歳のときウルサンで、働いていたレストランへ行く途中、2人の大男に腕をつかまれ、5人の女とともにトラックへ放りこまれた

（注）1は『証言——強制連行された朝鮮人軍慰安婦たち』（明石書店、1993）131—143ページ。  
7は2月21日参議院議員会館における本人の証言。8は本人の証言と質疑のテープ録音。  
9は2月15日の米下院公聴会における本人の証言を引用する形式



幸いライケに駐屯した第一師団第三旅團

(兵力四千) の駐屯キャンプにおける慰安所の実況について、スザン・ブラウンミラーがピーター・アーネット記者(ピュー・リツツァー賞受賞者) に試みたヒアリングがあるので、次に要旨を紹介しよう。

一九六六年頃までに、各師団のキャンプと周辺には「公認の軍用売春宿(Official military brothels)」が設置された。ライケでは鉄条網で囲まれたキャンプの内側に二棟の「リクリエーションセンター」があり、六十人のベトナム人女性が住みこみで働いていた。

彼女たちは米兵の好みに合わせて「ブレイボーリ」のヌード写真を飾り、シリコン注射で胸を大きくしていた。性サービスは「手早く、要領よく、本番だけ」(quick, straight and routine) がモットーで、一日に八人から十人をこなす。料金は五〇〇ピアストル(一ドル相当) で、女の手取りは二〇〇ピアストル、残りは経営者が取つた。

彼女たちを集めたのは地方のボスで、カネの一部は市長まで流れた。この方式

では硬論と消極論が対立してまとまらず、八日に調査研究を継続するため政府資料の提供を首相に約束させるだけに終つた。

ところが約束したとはいえ、河野談話の根拠となつた政府調査団(内閣外政審議室で編成)による十六人の元慰安婦からの聞きとり記録は見せられないというのだから、党側が「二階へ上げてハシゴを外された」と怒るのもむりはない。

しかし、安倍が首相に就任した直後からのふらつきぐあいを見ていれば、そもそも無理な注文ではあった。念のため河野談話に触れた首相と周辺の言行をたどっていくと、安倍はまず昨年十月五日、衆議院予算委員会で民主党の菅代表代行へ「私を含めまして政府として(河野談話を)受け継いでいる……私の内閣で変更するものではない」(国会議事録)と答弁している。

さらに菅氏から、九七年の答弁で河野談話に疑問を呈しているではないかと突つこまれ、「狹義の強制性はなくとも広義の強制性に議論が変わっていった」とも述べているが、わかりにくいか後段を伝えるがかった新聞も多く、継承するという前段が突出してしまつた。

しかも十月二十七日には下村官房副長官

で、米軍は「ディズニーランド」とも呼ばれた慰安所に手を汚していない形にしていたが、監督は旅団長で、ウエストモーランド司令官もペンタゴンも黙認しているのである。

女たちは週ごとに軍医の検診を受け、安全を示す標識をぶらさげていたが、それでも米兵の性病感染率は千分比で一〇〇(一九六九年)に達していた(Susan Brownmiller, *Against Our Will*, 1975, pp. 94-95)。

長々と引用したのは、米軍がコピーしたのかと思うほど日本軍慰安所の生態と瓜二つのので、この本を読めば米下院議員の諸氏に対する説得が省略できると考えたからである。ただし、女の取り分けは日本軍のほうが良かった(五割以上)かわりにシリコン注射の技法はなかったことを付け加えておきたい。ベトナム戦争末期には、この種の女性たちが三十万—五十万いたと書いており、シンシア・エンローの著書も参考になる。

こうした比較考察から引きだせる対策として、ブラウンミラーの著書の数ページを

が外務委員会で首相と同主旨を述べたついでに「閣議決定なので……」と言い添え、首相もフォローしたので談話の修正は簡単にはいかないと印象づける。河野談話が閣議決定だというまちがつた思い込み、当の河野洋平氏が現職の衆議院議長に座つてゐるという重みが首相の腰をぐらつかせたのかもしれない。

米下院の決議案がクローズアップされてきた二月中旬から論議は再燃した。十九日の予算委員会で稻田朋美議員(自民)が「河野談話を撤回する考えはあるか」とただしたのに対し、塙崎官房長官は「政府の基本的な立場は河野談話を受け継いでいる」と答えた(二十日付産経)。

次に三月一日の記者会見で首相は、河野発言の継承には触れず、「強制性を裏付ける証拠はなかったのは事実ではないか」(強制性の)定義が「(狭義)から(広義)へ」変わったということを前提に考えなければなどと語っている。

これに對しニューヨーク・タイムズ、ワシントン・ポストなどアメリカの主要新聞は一斉に二日の紙面で、首相が河野談話を全面否定したと書き立て、さらに国粹主義者、歴史修正主義者と批判した。産経新聞

配るというしぶく単純な手法がある。そしてマイク・ホンダ議員たちへアメリカ対日非難の資格ありやと問うて決議案を取り上げてもらうか、非難の対象を「日本政府」から「日米両国政府」に修正する

が、泣き寝入りする習性が身についてしまった戦後日本人に、不当な言いがかりには言い返す気力を持たせるきっかけにするだけでも意義があると思うのだが――。

## 裏日に出た河野談話継承

さてホンダ議員たちへの働きかけは、とりあえずの順服薬にすぎず、中長期的には河野談話の撤回ないし修正が課題だろう。その動きは談話の直後から断続してきたが、最近になって保守派議員で構成する自由党の「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」(中山成彬会長)の「慰安婦問題小委員会」(中山泰委員長)が官邸からの要請もあって見直し作業に着手した。そして三月一日に具体案を作成したが、委員会

でさえ、「(首相は)河野談話が対日キャンペーンの口実に使われていることを憂慮。見直しに着手すべきだと姿勢を示したのもどみられる」と解説したぐらいだから、海外紙が「誤解」してもやむをえず、むしろ首相の「あいまい戦略」によるわかりづらいレトリックが祟つたというべきだろう。

ともあれ国際的反響の厳しさに動搖したのか、安倍首相は五日の参議院における質疑で、あらためて「河野談話は基本的に继承していく」と述べた。しかし強制性を狭義と広義に分け、わかりやすくするつもりか、前者は「官憲が家に押し入つて連れていく」場合、後者は「間に入つた業者が事實上強制したこともあるた」事例と説明したのが裏目に出た。

私も発言の真意を測りかね、誤解が曲解の玉突き現象が起きはしないかと危惧していたら、やはり次のようない評論が出た。

「(首相は) 従軍慰安婦の強制性について狹義と広義の意味がある」と定義を使い分けることで、過去の発言との整合性を取る戦術を取ってきた。微妙なニューア

たにせよ、軍が前借金まで負担したとは考  
えられぬから、業者の売りこみから始まつ  
たのかもしれないし……と誣索しても無意  
味だろう。

私が意外に思ったのは、この種の募集広  
告が『ワシントン・ポスト』に比肩する  
『京城日報』という朝鮮最大の新聞に堂々  
と掲載されていたことだ。広告主は座して  
待つていれば、京城帝国大学卒業生の初任  
給の三倍にもなる高給に惹かれた女性たち  
が続々と応募してきたはずで、リスクの多  
い「強制連行」に頼る必要がなかつた証左  
にもなる。

第二次慰安婦騒動にはどんな手を打つても無駄な気がする。思えば十数年前の第一次騒動時も、支援者や運動体に煽られて、マスコミも熱に浮かされた狂ぶりで、異論に耳を傾けてくれる人は稀だった。

カトリックの日本人枢機卿が国会前に坐りこみ集団断食で抗議しようと呼びかけたり、二百万円の見舞金を「韓国では犬の値段だ」とわめく元慰安婦が登場した情景が思い出される。

そうした異様な熱気のさなかで、河野官房長官が周防正行監督なみに「それでも日本はやってない」と言い張る勇氣を持てなかつたのは、わからぬでもない。

では今回はどうか。熱源になつたアメリ

金子さんの戦争

除するのは、軍と業者は一方向ではなく、商取引の基本に則し、「魚心に水心」の関係としてどちらたいからである。

制に「広義」と「狹義」があるという日

**R・サミュエルズMIT教授**  
それにしても、今回の安倍の対応はアメリカ人には不可解に映る。河野談話が誤った歴史認識に基づいているというのなら、なぜ公式に撤回しないのか……強

慰安婦墓集広告

慰安婦急求  
大募集  
年齢 一七歳以上廿三歳迄  
勤先 後方〇〇〇慰安部  
月収 三〇〇〇圓以上(前借二〇〇〇圓迄可)  
年前八時半から午後十時迄茶人未接  
在籍期間約四箇月  
今井紹介所  
電話番號⑥一六二三

▲『京旗日報』(1944年7月26日)に掲載 ▲『毎日新報』(1944年  
どうせ叩かれるのなら難解な二分法を使わず、単純明快に「官憲による強制連行はア戰略としてはベターだったろう。しかも皮肉なことに安倍流の二分法は、マイク・ホンダが「勇気づけられる政治家」、朝日社説が「潔い態度」と称讃する河野洋平氏、一九九一年の「ビッグバン」で立役者となつた吉見義明教授のレトリックと見分けがつかぬ姿となつてしまつた。その理由を少し説明しよう。

本政府の責め分は理解せよというほう  
が無理である（『一九一九年日本  
版』〇七年三月二十一日号）。

朝日新聞によれば河野は一九九七年のインタビューで、政府による強制運行を証明する資料は見つからなかつたが、「本人の意思に反して集められたことを（広義の）強制性と定義すれば……数多くあつたことは明らか」（九七年三月三十一日付）と語つてゐる。河野自身がすでに河野談話の修正をすませていると見てもよい。

強制連行説から出発した吉見氏も九年一月半ばから慰安所生活に自由がなかつたと

する広義の強制論者へ転向した。  
考えて見れば、「広義の強制」論議ほど  
不毛なものはない。兵營に閉じこめられ、  
銃弾の中を突撃させられる兵士、前借金を  
もらい一方的にトレード（人身売買？）さ  
れるプロ野球選手、沖縄戦で動員された  
「ひめゆり」部隊、さらには公娼制のもと  
親に売られ内地や朝鮮の遊郭と呼ばれる  
「苦界」に身を沈めた女性と、どこで線引  
きするのか。

そこで、これ以上の混線を招かないため  
河野談話のどこをどう直せばよいのかとい  
う実用的な視点から、「狭義の強制」に関  
わる部分に限定した私案を次に提示してみ  
よう。他の部分も関連しての手直しが必要

慰安婦の募集については、軍の要請を受けた業者が主としてこれに当たったが、その場合も甘言、強圧など、官憲等が直接これに加担したこともあった。

水などの外遊団に比べ、中華両国の報賛度は意外に低い。たとえば中国の各紙は三月十一日に「安倍首相が慰安婦に対しおわび」したと論評抜きで報じた程度だが、昨年の対日論調を覚えている人は、かえつて氣味悪がるかもしれない。

特派員が三月十四日の産経紙上で「日本軍の慰安婦犯罪はアジアを超えて世界的な公憲の対象になった」とか「対日圧力の世界化ネットワークを」といった新聞論調を紹介、「日本人拉致問題をめぐる日本における北朝鮮たたきに対する報復心理が微妙にうかがわれる」との外交筋の見方を伝えている。つまり背後には「北朝鮮の影がある」というのだが、既出のように朝日新聞が同調する気配を見せているから、逆流する形でわが国の「反日派」が勢いづく事態も予想される。

とにかく千波は万波を呼ぶ。虚実とりまぜた誇大宣伝は相乗効果を生み、とめどなくエスカレートしがちだ。海外メディアで目についたのは「買春ではなく連続レイプだった」(ニューヨーク・タイムズ)、「安倍首相は耳が聞こえないのか」(英エコノミズム誌)、「天皇が謝るべきだ」(ロサンゼル

ス・タイムズ)、「ホロコーストなみの大罪」(マーク・ピーティ教授)といったところだが、便乗する形でレイプ犯罪の告白まで登場してきた。

目にとまつたのは、三月一日にA.P.東京

支局(田渕ヒロ子)が送つてワシントン・ポスト、ジャパンタイムズ、タイムなどに掲載された八十七歳の元日本軍兵士(金子安次)へのインタビューだった。

「中国でレイプした女性たちの絶えることのない悲鳴をいまだに忘れない」と語る元伍長は、この十年ばかり語り部として各所に出没している人だが、個人的なひつかりもあるので、少し寄り道するのをお許し願いたい。

二〇〇一年一月三十日、NHK教育テレビで「問われる戦時暴力」という番組が放映された。その編集にさいし、上部からの指示で数回の修正が加えられたが、放映直前の削除で五分の空白が生じ、関係のないカラコルム山脈の風景で埋める珍事件が起きた(詳細は本誌〇五年六月号の拙稿参照)。

この番組は、慰安婦問題で昭和天皇を有罪と宣告した女性国際戦犯法廷を題材にして、六人の兵隊がくじ引きで順番を決め、全員で強姦した。

検事 上から指示か。

金子 上官から女を見たら殺せと指示が出ており、どうせ殺すのなら強姦してもよいと考えた。

か、昨年五月の人事異動で長井もろとも現場を外され閑職に移った。

一部の支援組織は不当配転だときわいだが、盛りあがる気配もなく、事件全体が忘却のかなたへかすみつつあるようだ。

それでもボクはやつてない

三月十六日と十七日の各新聞は、政府が河野官房長官談話を継承するが、あらためて閣議決定にはせず、同談話の「発表までに

現段階における最終的な日本政府の対処

解説に結びつくかどうか疑わしい。問題の件にまで筆が及ぶ。

「N.H.K.の野郎、圧力をかけられやがった」と直感したそうだが、そのあと担当の長井ディレクターが涙の内部告発をした事

付け加えておくと、朝日対N.H.K.のバトルは泥仕合のままドロップゲームとなり、バウネット裁判のほうは今も継続中である。ところが一番でN.H.K.サイドに立つたおかげで昇進した永田プロデューサー(長井の上司)は、なぜか第二審ではバウネット側についてN.H.K.の「敗訴」を招いたせい

に改変によって「期待権」を裏切られたとしてN.H.K.などを訴え、控訴審判決(〇七年一月)後も最高裁で係争中である。

また二〇〇五年一月には番組の長井ディ

レクターから取材した朝日新聞が、番組改変に安倍官房長官(当時)ら与党政治家のN.H.K.との間で泥仕合が展開した。

私は法廷批判の立場でこの番組に出演したが最終段階の改変で、二人の「加害兵士」(金子と、その戦友の鈴木良雄)や慰安婦たちの法廷証言シーンがカットされたことに気づかなかつた。ところがバウネット側が、秦の出演シーンを予定より延長して穴埋めしたのは不當だと騒いだので内幕を知り、そしだとすれば金子老人には気の毒だつたと同情もした。

このたびA.P.電の記事で彼の語りおろしを中帰連の編集長(熊谷伸一郎)がまとめた『金子さんの戦争』(二〇〇五年)という本があるのを知り、取り寄せてみたら巧みな語り口に惹きこまれ、一気に読み通した。この分野の回想記としては、前出の文玉珠と並んで出色だと思うが、二人に共通するのは、あつけらかんとした明るさと女性のサービス精神だろうか。

収獲のひとつは、金子著のなかに放映されなかつたバウネット法廷での陳述が収録されているのを見つけたことであつた。さわりの部分(要約)を抜きだしてみる。

金子 昭和十八年、私たちは「ビーハウ」と呼んでいた。朝鮮人かと思つたら「違うわよ。私は日本人よ」「なに、日本人の恥さらしだ」と口論になり、女性から

「好きこのんでではない。夫は戦死し、二人の子供と母親をかかえどうやって生きていけばいいんですか」と言い返され、二の句も告げずに去つた。

検事 彼女たちは自分の意思で来ていたのか。

金子 違います。営業であり金儲けでした。金で縛られているから、自由はない。

検事 慰安所は強姦の防止に役立つたと思うか。

金子 役立つていません。

検事 なぜでしょうか。

金子 慰安所で一円五〇銭払うくらいだったら、作戦にいつて強姦すればただで

ある。

海外では令名のある歴史家や法律家でも、慰安婦問題に対する事実認識はおどろくほど低い。ダイナ・シェルトン教授(ジージ・ワシントン大学教授)を例にとると、「大多数(most)の歴史家は、徴用(script)された女性は十一二十万と算定している」「彼女たちの大多数は朝鮮人と中國人」「多くが誘拐(Hijab)され、レイブされた。次はだまされた者で、親に売られた者もいる」(口サンゼルス・タイムズから三月十一日のジャパンタイムズへ転載)のような認識である。

まちがいだらけなので私なりに訂正するに徴用した例はない」「最多は日本人女性」と、「慰安婦の総数は二万人以下で強制的に売られた者もいる」(ロサンゼルス・タイムズから三月十一日のジャパンタイムズへ転載)に応じた者で、だまされた者もいる」となる。「多くの親が業者に売つたか、業者の募集に応じた者で、だまされた者もいる」となる。ついでに慰安所の生活条件は、平均してベトナム戦争時の米軍慰安所とほぼ同じと付け加えた。

そして内外の運動家たちは、中国だけで半年間に救出した誘拐や人身売買(多くは強制売春)の被害者は十一万人以上とチヤイナ・ディリリー紙(二〇〇〇年九月七日付読売)が伝える現在の性犯罪根絶へ向けて奮闘してもらいたいと願つ。